

862T

三

院

決裁指字



受領

軍事連帶

決行後回
覽調名

補任

航空課

件番

名號

未朝佛國航空團

第二一四一號

歸スル

件

廳名

航空課

大臣

委

次官

五

高級
副官



主務
副官
官房
主計

參事官

局長

主務
課長



主務
課員



審案筆記首



主務局長

受領

大正八年

三月

十五日

航空課

局長

航空課

局長

航空課

局長

航空課

局長

航空課

局長

航空課

局長

航空課

局長

航空

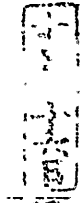
航空

次官ヨリ永井大佐へ電報案

佛國航空團ニ對スル件ニ關シテ
 大佐ノ所感ヲ求メタルニ大佐ハ我待遇ニ關シ
 シ不满ヲ訴フルモノ一人モナキコトヲ斷言
 シ且其ノ風説ノ出所及事實ヲ充分ニ探
 究セラレシコトヲ希望シ居シ予モ亦彼
 等ニ對スル待遇ノ態度變化セリト認ム
 ヘキ點ヲ發見セズ取調ハ至急返電セラ
 シタシ

以上全文暗部

五のり



008T

廢事

承久

主務局長 航空第一三隊 局長
 受領 大正八年十月四日 帶長
 提出 大正八年十月四日 執行局長
 受領 大正八年十月四日 後回
 了結 大正八年十月四日 長

大臣
 參事官
 次官
 主務局長
 局長

受領番名 航空第一三隊
 關
 又儿件

連帶
 軍事補保連帶

決行後回覽署名

補任

課長 課長 長

主務課長

高級副官

主務課員

副官 官房

審案筆記者

應名 航空課

次官ヨリ永井大佐宛電報案

目下來朝中、佛國航空團ニ對スル件。
 航空團ヲ日本、派遣セル佛國政府ノ好
 意ハ日本國民一般ニ了知セル所ニシテ
 該團員ニ對シテハ常々敬意ヲ拂ヒ且出
 來得ル限りノ好遇ヲ與ヘ當事者ハ熱心
 ニ具ノ教育ヲ受ルルニ態度ヲ持テ該團
 員モ亦我好意ニ對シ好感ヲ有シ居ルハ然
 ルモ其ノ細節ニ至リテハ言語ノ不通風
 習ノ差異等ヨリ徃々意志ノ疎通ヲ缺キ或
 ハ誤解ヲ拓キタルコトアリ或ハ此ノ邊方ヨリ

多少ノ不平ヲ醸シタルニアラサルヤノ疑アルモ之
 シ以テ彼佛國航空團ニ對スル日本ノ態度ノ變
 化ト見ルハ至當ニ非スト信ス其ノ原因ノ主
 ナルモノト認ムヘキモノ有ル如シ
 一、器材ノ不足及施設ノ不備ノ為彼等ノ要
 求ニ應ジ能ハサルコト
 二、當事者中一部ノ者ハ歐東人ハ風習ニ精
 シカラサルカ為應接上円満ヲ缺キタルコト
 三、佛國航空團ノ將校下士中一部ハ紳士
 的態度ヲ持セサルモノ在ルカ為我專修員
 等トノ間ニ多少ノ円満ヲ缺キシコトアルコト

之ヲ要スルニ目下佛國航空團員中ニ不滿ノ聲
 ナキモノト信ス委細ニ書面ニテ通報ス事貴官
 ノ承知セラレタルコトハ既ニ過去ニ属スルコト
 信スルモ尚見聞セラレタル事項ヲ具體的報
 告セラレ度ニ

(以上全文暗號)

永井大佐電報ニ對スルヲ示ル大佐ノ意見

臨時航空練習委員長井上篤太郎

永井大佐ヨリ來電ノ趣ヲ承知スルヤ先ヅ中村歩兵中佐
ヲシテ日本側ノ佛國航空團ニ對スル待遇上ニ就キ示ル
大佐ノ所感ヲ求メシノ更ニ十月十日會見ノ際小官
ヨリ直接同大佐ニ練習業務一般ニ就キ其意見ヲ
求メタリ其應答ハ大要左ノ如シ

井上將 在巴里永井大佐ハ電報ヲ以テ次ノ件ヲ陸軍大臣
ニ具申セリ

灰カニ關テ所ニ依レハ近頃日本將校中ニ佛國將校下士

陸軍大臣

二對ル態度稍冷淡ニ顯キ其指導ヲ受クルニ方リ
 熱心ヲ欲ノ者アリト
 フォール大佐以下多数ノ將校下士ヲ派遣セル佛國政府
 ノ厚意ニ對シテハ日本官民一同ノ大ニ感謝ノ意ヲ
 表セル所ニシテ我カ陸軍ハ全力ヲ舉ゲ其教ヲ仰キ以
 テ我カ航空界ノ發達ヲ期セシコトヲ熱望シ最大ノ
 努力ヲ盡シツ、アリ然レニ往々器材及人員ノ不足
 ニテ佛國航空團員ノ要求ニ應ジ能ハサリシ點
 アルハ甚ク遺憾トスル所ナリ
 抑モ今回ノ演習ハ相違隔セル教ヲ所ニ於テ實
 施セラレタルヲ以テ予ノ監視外ニ於テ或ハ我カ將校下士

ニシテ佛國航空團員ニ對シ誠意ヲ欲ケルコトナカリシマ
ラ恐ル、若シフオル大佐ニ於テ永井大佐カ電報セ
ル原因トモ篤リタル事實ヲ承知セラルハナラハ腹藏
ナク閑談セラレンコトヲ希望ス

フオル大佐 教日前中村中佐ヨリ吾々一同ニ對スレ日本側
ノ待遇ニ就テ不満ノ點ナキマ否ヤヲ尋ネラレ又同
時ニ永井大佐ヨリ來電ノ趣ヲ聞知シ誠ニ意外ニ
感シタリ來朝以來日本側ヨリ受クル厚遇ニ對シ
テ一同ノ深ク感謝セシ所ニレテ之ニ關シテ不満ヲ訴
フル者一人モナヤコトヲ斷言シテ憚ラス
教育ノ實施ニ關シテハ柄裡ノ事情ヨリ豫知ナク

左
巨

進捗セザリレモノナレトモ不足レ日本現在ニ於テ農村
 及施設ノ状態ヨリ察スレハ誠ニ無理カラヌ事ニ屬ス
 然レ閣下始メ各級將校殊ニ各級長カ充分ノ誠
 意ヲ以テ最善ノ方法ヲ講シ居ラル、事實ハ予ニモ
 夙ニ之ヲ認メノ教限同情ニ堪ニヤル所トス。
 各演習地ニ於テ意合セザル點アル時ハ其都度紳
 團教官ヨリ班長ニ其旨ヲ通告シ又予ノ知リ得
 タル事實ハ悉ク閣下ニ具申セリ故ニ閣下及其
 他ノ當事者ニ通告セシ以外ニ毫モ腹藏セズ事實
 ナシ、
 要スルニ永井大佐カ斯クノ如キ電報ヲ發セザルニ至リ

タル原因ヲ判断スルニ甚ハ或ハ一ニノ者カ私信中ニ
不平ラレキ事ヲ記載シタルコトアルニ依ルヤモ知レス
ト雖モ果シテ然ラハ之レ一時的ノ感情ノ激シ事實
ヲ夸大ニ記セルモノナルヘリ決シテ意ニ介スルニ足ラザルモ
ノナリ

永井大佐カ何レヨリ聞知セシタルカ其出所及事實
ヲ充分ニ探究セラレシコトヲ了ラズハ特ニ切望ス

井上少将ニ永井大佐ヨリ詳細ノ説明ヲ求ムルコトトセシ
又貴官ノ求ヘタル事項ハ陸軍大臣ニ報告スヘシ
尙將來ニ於テ氣付カレタル事ハ細大漏ラズ且ツ
腹藏ナク注意アラシムコトヲ希望ス

陸軍省
局長

フォール大佐 従来ト雖モ何事モ遠慮ナク申シ上ケ居レリ
 今後ニ於テモ一層閣下ノ御趣旨ニ副フコトヲ勉ムヘシ
 永井大佐ヨリ説明ヲ求メラルコトハ特ニ懇望ス

大正

陸軍

航空

航空

航空

航空

1810

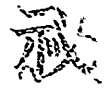
電報譯 十一月九日 午後二時 分發 第二號

陸軍大臣 宛 發信者 伊國大使波田武官 永井 東

親展

内々探聞スル所ニ依テ近來我將校中 佛國ヨリ
派遣ノ航空協會團ニ對スル態度甚冷淡トナリ一行
中不満ノ聲アリトコトナリ 佛國政府ノ好意ニ對シ甚
總焉ナラカレシキニ 我々航空界有達ノ為ニ今後尚
大ニ佛國ノ援助ニ俟タリ可クモノ見ニ當リ 勢ノ如キニ帝
國ノ為甚不利ト影射者ヲ貽スヘト信シ痛心ニ堪ヘ
不何分ノ事考慮ヲ煩ヒシ度右具申

三日



佛國航空團員中不満ニ関スル調査

大正八年十月三日

臨時航空術練習本部長井上幾太郎

判決

佛國航空團ニ對スル本邦將校ノ態度冷淡トナリ
タル事實ナリ永井大佐ノ電報ノ如ク一行中ニ
不満ノ聲アリ云々ノ件ハ些細ナル事件ニ於テ意
思ノ疎通ヲ缺ケル點ヨリ來ル一時的ノ小不平
ヲ誇大ニ傳聞セルモノナリト信ス

調査

佛國航空團ヲ派遣セル佛國政府ノ好意ハ一般ニ

了知セル所ニシテ該團員ニ對シテハ常ニ敬意ヲ
 拂ヒ出來得ル限り好遇ヲ與ヘ熱心ニ其教
 習ヲ受クルノ態度ヲ持シ該團員一同モ我厚意
 ニ對シ好感ヲ有シ居レリ然レモ細部ニ於テハ
 言語ノ不通及風習ノ差異ニヨリ往々意思ノ疎
 通ヲ缺キ或ハ誤解ヲ招キタルコトアリシハ誠ニ
 遺憾トスル所ニシテ或ハ此ノ邊ヨリ多少ノ不平
 ラ醸シタルニアラサルカノ疑アリト雖モ之レヲ以テ佛
 國航空團ニ對スル態度ノ變化ト見ルハ至^當通ニ
 非ラス今在ニ二三ノ事實ヲ摘記セン、
 一 器材ノ不足及施設ノ不備ノ爲彼等ノ要求ニ應シ能

ハサリシフト

佛國カ戰時中大規模ノ設備ト豊富ナル器材ト
 ヲ以テ各種ノ教育ヲ實施セルニ比シ本邦ノ諸般
 備ハ頗ル貧弱ニシテ最初ヨリ航空團負カ物足ラ
 又感ラ有セシフトハ事實ニシテ屢々器材ノ増加及
 設備ノ擴張ヲ要求セシモ急速ニ之ニ應ジ能ハ
 ガル事情アリテ當今負モ此點ニ關シテハ最モ苦
 慮セル所ナリキ此ノ状態ハ教育ノ進捗ト共ニ愈々
 急調ヲ呈セリ是レ缺損器材ノ補給ヲ要求スルコ
 ト曰フ追テ増加スルニ及ビ在庫品ハ缺乏ヲ告
 ケ期待セル購入器材(佛國ヨリ)ノ到着運送^進シ又

陸

軍

一方ニ於テハ大演習器材整備ノタメ工場作業
力ノ大部ヲ傾注スルノ已ムヲ得サルニ至リタルニ依ル
斯ク如キ若キ内情ヲ察セサル佛國將校ノ一部ニハ
其要求力速ニ容レレサルコトニ對シ不満ヲ抱キタ
ル者アルカ如シ

二、歐米人ノ風習ヲ知ラサルカ爲メ應接上圓滿ヲ欲キ
タルコト

佛國航空團員殊ニ各務ヶ原在勤者中ニ著シク
感情ニ支配セラレ易キ性質ヲ有シ教育上及考
科上ニモ感情ヲ加味シ又時ニハ過激ナル言論ヲ
弄スル者アリ要スルニ歐米人ハ一般ニ感情ノ發作

ヲ露骨ニ言動上ニ現ハス風習アリテ此風習ニ慣
レサル者ニハ頗ル不快ニ感セラル、コト往々ナリ而シ
テ最モ多リ之ニ接觸スル專修員及接伴將校ハ
比較的思慮熟キ青年者ニシテ屢々注意セル
ニ拘ハラス勤モスレハ應接上圓滿ヲ欲サルコトア
リ然レモ是レ皆一時的ノ出來事ニシテ常時ノ態
度ニ迄及ヘルノ事實ヲ認メス

三、鐵道優待券ノ請求上某將校カ不平ヲ漏シタルコト
佛國航空團員全部ニ東京—岐阜、東京—
所澤、東京—下志津^間ニ對シ鐵道優待券ヲ交
付シアリ此以外ノ區間ニ旅行スル際ハ其都度

シフト往々ナリ。

之ヲ要スルニ佛國航空團員中ニ不滿ノ聲アリ
トセハ其原因ハ意思ノ不通或ハ誤解ニ基キ
タルモノニシテ同團員ニ對スル態度カ冷淡ニ傾キタリ
ト見做スヘキ事實ナシ。

大正

五

航空

軍航

1818

航空

武三四一

一月二十日

9.10.20

軍部

永井大佐電報ニ對スルヲ示シ大佐ノ意見

臨時航空練習委員長井上篤太郎

永井大佐ヨリ來電ノ趣ヲ稟知スルヤ先ヅ中村歩兵中佐
ヲシテ日本側ノ佛國航空團ニ對スル待遇上ニ就キ示シ
大佐ノ所感ヲ求メシノ更ニ十月十日會見ノ際小官
ヨリ直接同大佐ニ練習業務一般ニ就キ其意見ヲ
求メタリ其應答ハ大要尤ノ如シ

井上將 在巴里永井大佐ハ電報ヲ以テ次ノ件ヲ陸軍大臣
ニ具申セリ

灰クニ聞ク所ニ依リハ近頃日本將校中ニ佛國將校下士

ニ對ル態度稍冷淡ニ傾キ其指導ヲ受ケルニ方リ
熱心ヲ缺ク者アリト

フオール大佐以下多數ノ將校下士ヲ派遣セル佛國政府
ノ厚意ニ對シテハ日本官民一同ノ大ニ感謝ノ意ヲ
表セル所ニシテ我々陸軍ハ全力ヲ舉ケ其教ヲ仰キ以
テ我々航空界ノ發達ヲ期セシコトヲ熱望シ最大ノ
努力ヲ盡シツ、アリ 然レモ往々器材及人員ノ不足
ニヨリ佛國航空團員ノ要求ニ應ジ能ハザリシ點
アルハ甚タ遺憾トスル所ナリ

抑モ今回ノ演習ハ相遠隔セル數ヶ所ニ於テ實
施セラレタルヲ以テ予ノ監視外ニ於テ或ハ我々將校下士

ニシテ佛國航空團員ニ對シ誠意ヲ欲ケルコトナカリシヤ
ヲ恐ル、若シフオル大佐ニ於テ永井大佐カ電報セ
ル源因トモ篤リタル事實ヲ承知セラルハナラハ腹藏
ナク閑練セラレシコトヲ希望ス

フオル大佐教日前中村中佐ヨリ吾々一同ニ對スル日本側
ノ待遇ニ就キ不満ノ點ナキヤ否ヤヲ尋ネラレ又同
時ニ永井大佐ヨリ來電ノ趣ヲ閑知シ誠ニ意外ニ
感シタリ來朝以來日本側ヨリ受クル厚遇ニ對シ
テ亦同ノ深ク感謝セル所ニシテ之ニ關シテ不満ヲ訴
フル者一人モナキコトヲ斷言シテ憚ラス
教育ノ實施ニ關シテハ坊裡ノ事情ニヨリ豫期ノ如ク

卷三

四

進捗セザリレモノナシトモス是レ日本現在ニ於ケル農村
 及施設ノ状態ヨリ察スレハ誠ニ無理カラ又事ニ属ス
 然ルニ閣下始メ各級將校殊ニ各班長カ充分ノ誠
 意ヲ以テ最善ノ方法ヲ講シ居ラル、事實ハ予モ
 夙ニ之ヲ認メ敬服同情ニ堪エサル所トス。
 各演習地ニ於テ意ニ合セサル點アル時ハ其都度佛
 國教官ヨリ班長ニ其旨ヲ通告シ又予ノ知り得
 タル事實ハ悉ク閣下ニ具申セリ故ニ閣下及其
 他ノ當事者ニ通告セル以外ニ毫モ腹藏セル事實
 ナシ、
 要スルニ永井大佐カ斯クノ如キ電報ヲ發セラル、ニ至リ

タル源因ヲ判断スルニ甚ハ或ハ一ニノ者カ私信中ニ
 不平ヲレキ事ヲ記載シタルコトアルニ依ルヤモ知レス
 ト雖モ果シテ然ラハ之レ一時的ノ感情ニ激シ事實
 ヲ誇大ニ記セルモノナルヘク決シテ意ニ介スルニ足ラザルモ
 一ナリ

永井大佐カ何レヨリ聞知セシタルカ其出所及事實
 ヲ充分ニ探究セラレンコトヲマイハ特ニ切望ス

井上少将ニ 永井大佐ヨリ詳細ノ説明ヲ求ムルコトセン
 又貴官ノ求ヘタル事項ハ陸軍大臣ニ報告スヘシ
 尚將來ニ於テ氣付カレタル事ハ細大漏ラサス且ツ
 腹藏ナク注意アラシムコトヲ希望ス

陸

軍

「アール大佐」從來ト雖モ何事モ遠慮ナク申シ上ケ居レリ

今後ニ於テモ一層閣下ノ御趣旨ニ副フコトヲ勉ムヘシ

永井大佐ヨリ説明ヲ求メラルコトハ特ニ懇望ス

秘

三二四二

9.10.25

大正八年十月二十四日

電報

十月二十日午前九時二十分發
二十日午前十一時十分着

陸軍次官宛

巴里 永井大佐

佛陸第一二八號

陸第五百號返

佛國飛行團ニ関スル件ハ前東京在勤佛國大使館
武官タリシ某氏カ飛行團ニ屬スル友人ヨリ得タル最
近ノ私信トシテ語リタル所ニシテ公私ノ待遇等ハ何
等間然スル處ナキモ直接教官等ト接觸スル日本將
校ノ態度ニ十分ノ信任ト隔意ナキ友情トヲ歎クカ如
ク勤モスルハ敬遠主義ヲ採ルニ非サルヤノ風ヲ認
ルヲ不快ニ感シツツアリト云フ
而シテ小官ハ當地ニ派遣セララルル日本將校ニ對シ極メ

1824

テ親切ナル佛国将校ノ氣風ニ鑒ミ特ニ注意ヲ要
スヘシト信ス

尚ホ右某氏ハ彼ノ私信ノ件カ表面沙汰トナルコトハ
甚又迷惑ヲ感スヘキヨリ然ルヘク御含ミテ請フ
終リ